

台湾台風・土砂災害

この活動は終了しました

被害状況／課題

堰止湖が決壊、濁流が市街地へ

2025年7月に台湾東部花蓮県光復郷の馬太鞍溪で地滑りが発生し、山間部に堰止湖が形成されました。その後、9月23日台湾を襲った台風18号が原因で堰止湖が決壊し、光復郷市街地に濁流が流れ込みました。多くの家屋が浸水被害を受け、市街地の人口約12,000人のうち最大約7,000人が避難を余儀なくされました。

9月26日に緊急支援チームが被災地に入った時点で、電気と水道は概ね復旧し、食料や飲料水といった物資も届いていましたが、家屋内の土砂の清掃や消毒が進んでおらず最大の課題となっていました。



協力団体 (MSM) 職員と被災状況の確認をするAARの岡山典靖 (右奥) と生田目充 (左) =台湾東部花蓮県で2025年9月26日

AARの取り組みと成果

2024年4月の台湾地震で連携した現地協力団体The Mustard Seed Mission(MSM)とともに、緊急支援を実施しました。

避難所での物資配付

発災直後、避難場所に身を寄せた被災者875人に、コメ、調味料、乾燥食品などの食料品と歯ブラシやシャンプーなどの日用品を配付しました。

土砂の除去支援および家屋修繕

道路や家屋内に堆積した土砂の除去作業のため、MSMはSNSを通じて約800人のボランティアを動員し、シャベルと高圧洗浄機を使った除去作業を実施。発災から2〜3週間後によりやく大方の作業が完了しました。土砂除去後は、破損したドア、窓、水道、トイレ配管などの修繕支援にも取り組み、ひとり暮らしの高齢者世帯など56世帯の自宅を生活できる状態に復旧しました。

避難所支援

避難所に滞在する子どもたちのために絵描きなどができる「子ども広場」を運営するとともに、疲弊した高齢者への足マッサージなど、心身のケアにも配慮した支援を行いました。

地域の団体との協働で迅速かつ適切に支援を届ける

AARとMSMの連携は、2024年の台湾地震の際に始まりました。支援経験のない国や地域で被災者のもとへ確実に支援を届けるためには、現地の実情を熟知した団体との協力が欠かせません。MSMは社会福祉の分野で70年以上にわたる活動実績を持ち、台湾国内に広いネットワークを築いてきた団体です。そのパートナーシップがあったからこそ、より脆弱な立場に置かれた方々へ、迅速かつ適切に支援を届けることができました。

また、MSMはAARの能登半島地震被災地での活動を支援してください、AARの活動も視察しています。そうした学び合いや信頼の積み重ねが、今回の台湾台風支援にも確かに活かしています。

AAR緊急支援担当 岡山 典靖



避難所に届けた支援物資＝光復郷で2025年9月



ボランティアによる家屋内の清掃



避難所で被災者の足マッサージを行うMSMスタッフ＝2025年10月